

謹賀
新年



いわき市

農業委員会だより

編集・発行 いわき市農業委員会

2018

平成30年1月1日発行

No.177

〒970-8026

いわき市平字堂根町4-8

TEL.0246(22)7534

FAX.0246(22)7538

冬の彩、フラワーセンター



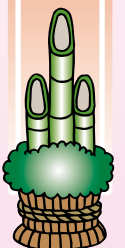
あけまして おめでと
うございます。
皆様におかれましては、
お健やかに新春をお迎え
のこととお慶び申し上げ
ます。
元来、我々の秋は、実
りの秋、収穫の喜びを味
わう季節、昨年の稲刈の
時期は台風の直撃等で、
大変苦勞の秋となりました。
た。ニュースでは「史上
最大」「何十年ぶり」な
どの言葉を耳にし、自然
現象も含め、災害がいつ
起きるか分からない時代
に私達は生きております。
農政も目まぐるしく変
化しており、今年から米
政策が大きく変わります。
飼料米百万トンの転換
に約千六百億円の助成額
が必要になるといいます。
国民一人一食当たりの
負担に置き換えると、約
一円程度になり、それ
によって、水田は維持でき、



いわき市農業委員会
会長 鈴木 理

!!デ!!
今年こそ!!農業ファ
ースト、農業者ファ
ースト
皆様方の一層のご支
援を心よりお願い申し上
げまして、年頭のご挨拶
とさせていただきます。
食糧安保、環境保全、自
給率向上と、効果は大き
くなります。
一方、政党交付金は、
国民一人当たりコーヒー
一杯分の負担とされ、一
日約一円を払っています。
前述の一円を、高いと
みるか、安いと考えるか、
大いに議論して頂きたい
と思います。
本市農業委員会も今年
七月に改選されます。改
正法により、委員の選出
方法が大きく変わります。
そして、新たに、農地
利用最適化推進委員が設
置され、農地の適切な利
用等の調査に関する部分
が強化される事になりま
す。これらの公募につい
ては、今年の2月から募
集することになりますの
で、若い方、女性の方も
積極的に手を挙げて頂き
たいと思います。

年頭ごあいさつ



平成29年度「農地等の利用の最適化に関する意見等」



●市長に意見書を提出(前列右・鈴木会長)



●議長・副議長へ支援を要請

農業委員会では、昨年10月13日、鈴木会長ほか役員5名が、「農地等の利用の最適化に関する意見等」を清水市長に提出するとともに、菅波議長並びに蛭田副議長へ、意見内容の実現に向けた支援を要請いたしました。その概要は次のとおりです。

農地等の利用の最適化の推進に関する意見

1、農業生産基盤の整備推進

- ① 基盤整備の重要性に鑑み、期間を限定した集中的な市独自の受益者負担の軽減策について検討を進める必要がある。
- ② 補助率が高い国県事業の要件(大規模集積)を満たすことが

2、担い手支援策の構築

- ① 水や草刈りの管理を地域全体で担うシステム作りや導入負担の大きな農業用機械の共同利用など、地域全体で担い手を支援する共助の仕組みの構築を検討する必要がある。
- ② 日本型直接支払制度など既存の

枠組みについても、その方面に誘導・特化することが望まれる。

3、農業後継者の育成・確保

既存の国県事業の活用のみでは不十分であり、強力な支援策として、市独自事業の構築と手厚い予算配分が必要である。

4、人・農地プラン作成の推進強化

人と農地が抱える様々な課題に取り組むにあたり、各地区における課題や目的の共有が肝要であり、地区の理解や協力を十分に得るための下地づくりとなる手段として、人・農地プランの作成が有効であることから、具体的な補助制度の活用計画等がなくとも、全市的にプラン作成に取り組むことが必要である。

5、守るべき農地、守れる農地の選択と集中

現状を維持するための人的資源も限られていることから、人と農地の最適化を念頭に、守るべき農地、守れる農地の選択と集中を実現するため、「いわき農業振興地域整備計画書」をはじめとする行政計画等の見直しにあたっては、単純な数量の確保・維持等ではなく、人と農地を連動させた実態に即した現実的な視点が必要不可欠である。

農業振興に係る支援及び予算確保等に関する要望

1、イノシシ被害対策の拡充

【重点項目】

鳥獣被害対策には、侵入防止対策、個体数の調整、周辺環境の整備が重要であり、これらを適切に実施し、総合的な対策を強化する必要があることから、各種施策の継続と拡充を要望する。

2、放射性物質吸収抑制資材の散布支援の継続【重点項目】

水稲への放射性セシウム移行を低減するカリ質肥料の施用により、安全・安心な米が出荷・流通されているが、放射性物質は農地に残留し続けており、今後も継続した取り組みが必要のため、既存事業の継続と散布による土壌や生産物に与える長期的な影響調査の実施を要望する。

3、風評被害対策の継続と強化【重点項目】

農産物の価格低迷をはじめ、未だに風評による苦しみが続いており、農産物の価格回復など、農業再生の取り組みとして今後も引き続き風評対策は必要であることから、既存の取り組みの継続と強化を要望する。

4、生産振興策と6次産業化の推進

5、森林再生に向けた取り組みの推進

6、農業委員会法改正に伴う組織等見直しと関連予算の確保

今号の表紙から

今回ご紹介するのは、平四ツ波字石森の「いわき市フラワーセンター」です。

施設の開設後、40年を経過し、何度か改修工事を行い、新たな施設設備を行ってきましたが、現在は施設の指定管理者制度により、市内の民間企業が管理運営を行っております。

訪れたのは、多少の風がある11月初旬。まだ紅葉の真つ盛り。ブーゲンビリアがところせましと枝葉を広げ、紫の花(正確には包葉)が温室いっぱい咲きほこっていた冬季の大温室を思い、30年ぶりにセンターを見る。懐かしさとともに当時を思い出される日でありました。

広い駐車場に降り立ち、正面入口から。階段を昇り芝生に。東にブレードが回る風力発電施設、ここからの南東方面は絶景。そして正面の展示温室。次いでフラワーライフ館前の芝生から南を振り返り、イングリッシュガーデンを抜け、帰りにレストハウス。訪れる人はまばらであったが、ゆっくりと歩いて散策できた。

開設当時の本館跡は新しい植生に変貌。展示温室の中は、まだ湿度を上げていないせいか、ブーゲンの花はこれからというところか。それでも、バナナ、パイア、ハイビスカスなどの南国の果実・花にもお目にかかり、一安心。

行き方は、平商業高校、昌平高方面からが本筋。四倉町柳生、平絹谷からのルートも。

冬期間の草花の乏しい日々、温室の中に咲きほこる南国の草木花をぜひご覧になつては如何でしょうか。

(執筆・撮影 渡邊 雄八 委員)

がんばる農業者 あの人この人



遠野町上根本 折笠 明憲さん(32歳)

産しています。

現在は酒米の山田錦、ふくのさちを試験栽培し、試行錯誤中です

野菜は、ナス、秋冬ネギ、春菊(ハウス)等50a栽培しています。

出荷先はJA、JA直売所、マルト地場野菜直売所、個人等です。

折笠さんは以前、板前をしていましたが、料理の素材に興味を持ち、そして、定年のない一生働ける仕事として、平成19年に就農しました。

現在は、JA福島県青年連盟 幹事長、また、いわき農業青年クラブ副会長を務めています。

昨年11月25日に開催されたJA福島県青年連盟 設立70周年の記念式典を挙

行する際も準備に奔走されていました。

折笠さんは昨年8月に結婚されました。おめでとうございます。

今後、農業指導者として地域市、県での益々のご活躍を期待いたします。



水稲育苗(硬化まで)も行っており、自家用を含め約60戸の農家分、約8,000箱を生

(執筆・撮影 瀬谷 弘 委員)

新たな農業委員・ 農地利用最適化 推進委員の募集について



農業委員会法の改正により、次期改選(平成30年7月)から農業委員の選出方法が従前の選挙制から市長の任命制に変更され、併せて現場活動の中核を担う農地利用最適化推進委員が新設されますので、次のとおり両委員を募集します。

区 分	農 業 委 員 (市長が任命)	農地利用最適化推進委員 (農業委員会が委嘱)
定 数	24人 ※地区単位の定数なし ※過半数は認定農業者とする	32人 ※地区単位(表1)で募集
主な業務	(1)合議体としての意思決定 (2)許認可等の議決(現地調査含む) (3)法令の適正運用に係る現場活動	(1)担当区域内の農地の利用状況調査等 (2)担い手への農地利用の集積・集約化 (3)遊休農地の発生防止・解消
要 件	農業に関する識見を有する者	農地等の利用の最適化の推進に 熱意と識見を有する者
報 酬	月額55,000円	
任 期	平成30年7月から3年間	
募集期間	平成30年2月1日(木)～平成30年2月28日(水)	
申込方法	市ホームページ、支所等の窓口で募集要項及び申込用紙を入手し、必要事項を記入のうえ、農業委員会事務局へ持参または郵送してください。 ※申込にあたっては、募集要項で詳細をご確認ください。	
留 意 点	●農業委員と推進委員は両方に申込可能ですが、兼任は出来ません。 ●農業委員と推進委員への申込は、それぞれ申込が必要です。	

(表1)農地利用最適化推進委員地区別募集人数

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9
地区名	平1区	平2区	小名浜 常 磐	勿 来	内 郷 好 間	三 和	四 倉 久之浜・大久	遠 野 田 人	小 川 川 前
募集人数	4人	4人	3人	5人	1人	3人	5人	4人	3人

※平1区と平2区は、概ね夏井川の北側と南側になります。詳細は募集要項でご確認ください。

お問い合わせ：農業委員会事務局 農政振興係 ☎22-7534

農地流動化情報

Vol.36

農業委員会では、耕作を目的とする農地情報の収集・提供を行っています。売買・貸借等の意向がある方は、是非ご相談下さい。

■貸したい

No.	農地の所在地	地目	面積(a)
1	四倉町戸田字稻荷作(2筆)	畑	37.95

ご覧になって、手続き等の詳細を知りたいという方は農業委員会事務局までお問い合わせください。

※今回掲載した農地以外にも
売買・貸借等の意向がある方は、是非ご相談ください。



【お問い合わせ】

農業委員会事務局 農地調整係

0246(22)7578

■売りたい

No.	農地の所在地	地目	面積(a)
1	平塩字雷町(1筆)	田	9.91
2	平上神谷字北ノ町(1筆)	田	9.99
3	平上神谷字神谷分(1筆)	田	9.82
4	平上神谷字反町(1筆)	田	9.72
5	平上高久字高田(1筆)	田	9.91
6	平上高久字奥町(1筆)	田	3.20
7	小名浜島字西屋(1筆)	田	7.04
8	常磐上湯長谷町長倉(1筆)	田	12.34
9	常磐上湯長谷町長倉(1筆)	畑	0.44
10	三沢町弓張(4筆)	田	31.12

農地法の許可申請等の受付締切日・ 指令書交付日が変更となります。



来年度から、農地転用の許可権限面積を4ha以下まで拡大することに伴い、平成30年4月申請分から、原則として受付締切日を毎月26日、指令書交付日を翌月の26日に変更いたします。

(平成30年4月申請分の受付締切日は、平成30年3月26日となります。)

変更となる農地法の許可申請等については、次のとおりとなります。

区 分		受 付 締 切 日	指 令 書 交 付 日
許 可	3 条	毎 月 2 6 日	翌 月 の 26 日
	4 条	毎 月 2 6 日	翌 月 の 26 日
	5 条	毎 月 2 6 日	翌 月 の 26 日
届 出	4 条 ・ 5 条	毎 月 5 日	同 月 の 15 日
		毎 月 2 0 日	同 月 の 月 末
現 況 確 認 証 明		毎 月 2 6 日	翌 月 の 26 日
農地法施行規則第29条		毎 月 2 6 日	翌 月 の 26 日

※市街化区域内の農地転用に係る届出については、従来どおりとなります。

お問い合わせ：農業委員会事務局 農地調整係 ☎22-7578

トピックス

相変わらず多い
農機具による
事故をなくそう!

今や規模の大小に関わらず、作付準備から収穫まで農作業全てが機械化の時代。一年間を通し幾度となく農作業による事故が報道されています。(28年度いわき管内の事故数189件)

皆さんの身の回りでも、大なり小なり怪我などの事故の話などを耳にしていると思います。

特に次の点について注意をし、豊かな稔の秋を迎えましょう。

★農機具点検は日頃から!!

日頃の農機具点検は忘れずに行いましょう。

農業機械に愛着を持てば機械作業も無理をせず丁寧になり、事故防止につながります。

★農作業は余裕を持った計画を!!

立案は綿密に、そして経験に基づいた計画を立てましょう。

余裕を持てば、たとえ予想外なことが発生しても慌てなくて済みます。

★機械作業は慣れに頼らず、いつも緊張感を!!

慣れは危険が潜んでいます。

高齢者は特に注意を! 昨年の自分ではないことを認識しましょう。

★うっかりミスは大事故招く!!

特に乗用トラクター運転による転倒はウっかりが原因、後進時や畦畔乗越え、よそ見運転は慎重を欠けば、重大事故につながります。(執筆 佐藤 哲男 委員長)

編集委員

佐藤 哲男 委員長・小泉 昌男 副委員長
渡邊 雄八・瀬谷 弘・愛川 卓司

含む25校が参加し、好間高校が最優秀賞に輝いた。参加校のうち数校は、同年8月12日四倉海岸特設会場にて復興支援の名のもとフラガールズエキシビジョンショーが開催された。小雨まじりの天候のなか、町田工業高等学校(東京都)のフラで始まり、前日の緊張した中の競演とは違い、海を背景に、はつらつとしたダンスを見物客に披露した。

霧中であつたと英人さんは当時を振り返った。その後、紆余曲折をへて平成23年第一回「フラガールズ甲子園」が月、東京で開催された。年々参加が増え、続いている。代表する事業として発展し続けている。四倉では復興支援として花火大会、千葉市では復興支援として有志の会、せま市では復興支援として支援等、数多くのイベントで皆さん



昨年のイベントを振り返って

昨年を振り返ると、復興のイベントを思い出す。第7回フラガールズ甲子園が平成29年8月11日アリオスで開催、本県の9校を

先日「いわき市民栄誉賞」を受章したカレイナ早川さんが当時招へいされた。フラガールの指導にあたり、フラガール一期生を送り出した。この様子は映画「フラガール」の場面であることが出来る。この映画の中で一期生の一人、小野恵美子さんのモデル役を女優の蒼井優さんがみごとに演じた。



平成29年8月12日 四倉海岸特設会場にて

は勇氣と元氣、そして希望をいただいた。そのすべてのイベントにありがとう。最後にこの取材に対し「NPO法人フラガールズ甲子園」理事長小野英人氏には多大な御協力をいただき感謝いたします。(執筆・撮影 愛川 卓司 委員)

農家のための情報誌

全国農業新聞の購読をあなたも

●発行：毎週金曜日
(月4回)

●購読料
月700円

申込みは
お近くの
農業委員または、
農業委員会事務局

☎(22)7534



近年の異常気象を考えると、最悪の状況も想定しつつ、農業を続けていかなくてはならないのかもしれない。今年は、気持ちの良い天候が続く、晴れ晴れとした気持ちで収穫を迎えたいものです。(執筆 小泉 昌男 副委員長)

編集後記

